

文化財保護の最前線



協力員による史跡めぐりガイドのボランティア

下町文化

第 188 号

平成 9 年 11 月 15 日

発行

江東区教育委員会

生涯学習部生涯学習課

文化財保護は私たちの手で

期待が高まる協力員制度!!

以前、4月号で紹介いたしました文化財保護推進協力員（以下「協力員」）を皆さん覚えていますか？。「地域に根ざした文化財保護」を合言葉に、文化財保護・調査のため区内を奔走している方々です。今回は、文化財保護の現状について、6年目を迎えた協力員の活動を通して考えてみたいと思います。

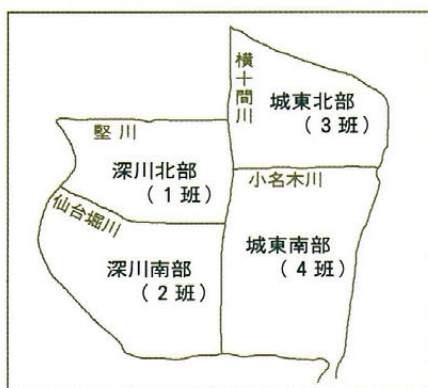
協力員制度の発足

協力員制度は、平成4年度に産声をあげました。任期は2年で、初年度に教育委員会から20人が委嘱を受けました。その後も毎年20人を委嘱し、1年を計40人で運営してきました。発足以来、(1)現況確認調査、(2)定点観測調査、(3)史跡めぐりガイド、(4)歴史と生活展解説・警備、(5)民俗芸能公開の会場設営・警備が主な仕事で、なかでも(1)と(2)は協力員の基本的な仕事になります。

地域別の活動

協力員の40人は、住所を基準に10人ずつ4班に分かれています。深川北部（1班）・深川南部（2班）・城東北部（3班）・城東南部（4班）がそれです（下図参照）。地域重視を基本に、そこに住む人、または関

わる人が文化財を守り、後世に伝えていくという考え方がそこにはあります。特に、江東区は「最近引越してきたので、地域の歴史は知りません」という方々も多いようですので、歴史の「語りべ」である文化財はより重要な意味をもちます。



(2面へつづく)

身近にある文化財

文化財というとすぐ京都や奈良にある国宝級の文化財が思い出されます。しかし、文化財は決してそのようなものばかりではありません。皆さんの近くにも、江東区の歴史を秘めた多くの文化財が残されているはずです。派手なものではなく、ひっそりとたたずむ文化財だからこそ、今後とも長きにわたって保護されていくことを期待したいものです。

*

ここでは、協力員の活動について少し詳しくご紹介いたします。

(1) 現況確認調査

教育委員会の登録文化財は、野外にあるだけでも、すでに数百件を数えます。文化財係では、新たに登録される物の調査を行う必要があるため、10年来、蓄積された文化財の現況を確認する余裕がほとんどありません。そこで、これまでに調査・登録された文化財の再調査（現況確認）を協力員の皆さんにお願いしています。そのための計画・



平成6年



平成8年

定点観測調査（東陽5丁目）

撮影技術は、文化財保護推進員講習会ですでに習得済みです。そして、その技術は協力員活動を通してさらに磨きあげられることになります。現況確認調査は、教育委員会の依頼によるものですが、実際の調査は協力員の技術に裏付けられたものです。その意味では、協力員活動は、地域の人々による文化財保護の一環として位置づけることができます。

(2) 定点観測調査

定点観測とは、「町の顔」とでもいうべきまちなみ景観の変化を写真で記録しようとするもので、いわば町の「成長」記録です。時代とともに変化するまちなみをつぶさに記録することで、発展の具体的な様相を跡付けていくことができます。

協力員は、まず定点

（写真撮影の地点と撮影方向）を1年間分として約100か所（各班50か所程度）

を決定・撮影し、2・3年目もこの方法で新しい定点が決定されます。3年を1サイクルとして、4年目には初年度に撮影した場所を同地点・同方向で撮影します。これで3年間隔の町並変化を記録できます。すでに変化している場所も見受けられ、早くもその成果が現れています。

(3) 史跡めぐりガイド

史跡めぐりガイドは、文化財係主催の地区別講習会での史跡めぐり（6月）と文化財保護推進員講習会のプログラムの一環として行っている史跡めぐり（9月）で、協力員に受講生への解説などを担当していただくものです。

今年の場合、亀戸地区で推進員講習会の史跡めぐりを行いました。この史跡めぐりで、コースの選定、文化財等の解説、移動の際の誘導・



協力員研修会（写真の撮り方）

安全確保、さらに史跡めぐり全体の進行管理を行うのが、城東地域担当の協力員（3・4班）の役割です。約30人の受講生が安全に史跡めぐりを行えるのも、協力員の陰の力に支えられているからなのです。

2時間半という決められた時間内に史跡めぐりを行うため、コースの選定や解説ポイントには苦労しますが、このコース設定が翌年6月の地区別講習会の史跡めぐりコースになります。

地区別講習会では区内を7つの地区に分け、その地区の歴史や文化財を多くの方に知っていただくための講義と史跡めぐりを、毎年順番に開催しています。来年は「亀戸の歴史」で、9月の史跡めぐりは1班で移動しますが、地区別講習会は受講生が多いため、3班に分けて行います。



史跡めぐり風景（龍眼寺〈荻寺〉）



協力員会議の様子

このような
史跡めぐりガ
イドは、区民
自らによる文
化財保護の普
及活動として
位置づけられ
協力員はその
最前線で活躍
しています。

前年の実績から城東地域の協力員が2つの班を受け持ち、深川地域の協力員が1つの班を担当することになります。そして9月になると、今度は深川地域担当の協力員(1・2班)が推進員講習会の史跡めぐりガイドを行います。

こうして、文化財講習会と協力員活動が一体のものとして展開しているのです。

この他にも、文化財係に「史跡めぐりのガイドを紹介してほしい」という問い合わせがあると、該当地域の協力員を紹介することがあります。7月には身体障害者のボランティアとして史跡めぐりガイドを務めました。また、場所や時間など、さまざまな要望に応えるため、講習会でのガイド経験が生きてくるといえます。

(4) 歴史と生活展

歴史と生活展は、区民の皆さんからご寄贈いただいた民俗資料やパネルを使って、江東区の歴史や民俗を紹介するものです。

協力員の皆さんには、展示解説および会場警備をお願いしています。本年度は、「深川御師町の歴史と暮らし」と題して江戸初期より昭和30年代まで深川浦で続けられてきた漁業の歴史を紹介いたしました。毎日、多くの見学者がとづれ、協力員の仕事も忙しうでした。



歴史と生活展の展示解説

(5) 民俗芸能公開

江東区は、毎年10月に江東区民俗芸能保存連盟のご協力を得て民俗芸能の公開を行っています。公開される木場の角乗、深川の力持、木場の木遣、砂村囃子、富岡八幡の手古舞は、それぞれ江東区を代表する民俗芸能です。その際、協力員には、民俗芸能公開のための会場設営・警備をお願いします。

それまでの見る側から開催する側へ視点を移すことで、多くの発見があるものと思われまふ。

協力員と地域活動

以上、ご紹介いたしました協力員活動は、地域活動という側面も兼ね備えています。このような活動を通して協力員が気づいたことや感想なども多いものと思われまふ。そこで教育委員会では、協力員との意見交換の場として「協力員会議」(年3回)を開催しています。教育委員会と協力員とが文化財保護という目的のために、より良い方向性を見いだそうとする試みです。

文化財はそこに住む人々によって保護されることが望ましいとは思いません。そのための地域活動の一環でもあ



角乗会場の設営

る協力員活動は、今後もますますエネルギッシュに展開していくでしょう。

江東ゆかりの人物(5)

松雲元慶



元禄中期、大島3丁目総合区民センターあたりに境内六千坪の天恩山五百羅漢寺が建っていた。寺内に黄金色に輝く等身大の羅漢像五百体を安置。そして通称「さざえ堂」もそびえたっていた。「大島の羅漢」として江戸の名所であった。

像を刻し、寺を造立した人、それが松雲元慶である。

俗名九兵衛、慶安元(一六四八)年京都に生まれた彫刻師。が、鉄眼禅師に入門、羅漢像彫刻を発願しつつ仏門修行。そして、江戸に出る。

羅漢像造立の喜捨活動を開始、資金調達の苦しい日々が続く。労が報いられて五代將軍綱吉に「本所五ノ橋南」に土地をたまわる。羅漢像・寺院ともに完成。宝永7(一七二〇)年63才で没した。

明治以降、寺も羅漢像も大島を離れて転々とした。が、今、目黒区下目黒に寺名も、羅漢像も、江戸期のままに現存、仏の光を放っている。

(辻 康信)

おしらせ

江東史談会例会

日時 11月27日(木) 午後5時
会場 春慶寺(墨田区業平2-14-9)
案件 鶴屋南北と並木五瓶
会費 500円

芭蕉記念館から

ジュニア俳句教室

日時 12月13日(土)午前9時30分
(集合9時20分)
会場 芭蕉記念館2階研修室

内容 俳句をつくってみよう
対象 区内在住の小学生30人
(先着順)

費用 無料(筆記用具持参)

締切 12月12日(金)

申込 窓口または電話で

◇芭蕉記念館

江東区常盤1-6-3
(3631) 1448

展示室休室のお知らせ

芭蕉記念館は、12月15日(月)から12月17日(水)まで展示替えのため展示室と図書室が休室となります。新展示は12月18日(木)からです。

ここにも歴史があった



写真の戸棚は、富士講の道具を入れてあったものといわれています。

富士講とは、富士信仰の信者組織です。富士信仰は、江戸初期に修験行者の角行によって民衆のあいだに広まり、その後身縁という人物によってますます隆盛となり、江戸の各地で富士講が組まれました。富士講では病氣快癒の加持祈禱や、「焚上げ」という吉凶占い、富士登山が重要と

たくみのやかた 工匠館から

伝統の技 実演公開

毎月第一・第三日曜日に工匠番館(森下文化センター内)で行っています職人さんの今後の実演日程は次のとおりです。

12月7日 簾製作 豊田 勇



*時間は午後1時~3時

されました。富士山には講員の中で特に修行を積んだ「先達」が講を代表して登りました。富士山に登れなかった講員は溶岩で固めた人工の築山をつくり、それを登ることで富士登山に模していました。

写真の戸棚の中には、密教などでも使われる法具、五鈺鈴がありました。

この資料は、東砂5丁目の斎藤富三さんから寄贈いただきました。

新刊案内

江東ふるさと

歴史研究論文集一

「江東ふるさと歴史研究論文集」は、区民の皆さんが、独自に研究した成果を論文にまとめたものです。平成9年度は、8点の応募があり、うち5点が入選しました。「江東ふるさと歴史研究論文集」には、この入選作5点を収録しました。

収録論文は次の通りです。

深川村の考察 岩松 精

伝承・堀切八幡社流失考 江川 実

江東の埋立と市街地形成の特質 大野 克也

庚申塔についての考察

— 江東区を中心として —

富永 文昭

深川における醤油醸造業 増田 宏

その他、江東区文化財保護推進員中級研修会の成果発表として、

深川木場・掘割の生い立ちと変遷

— 深川地域の発展と木場 —

が収録されています。

A4判 1部650円

生涯学習課文化財係窓口で頒布中